

中部の

エネルギーを 築いた

人々

馬野川水力電気を創設した
伊賀の政治家・名望家 馬岡次郎

馬岡次郎(1887~1966)は、三重県伊賀地方の旧布引村の村長を長年務め、また、県会議員を経て衆議院議員を務めた。実業界でも多方面に活躍し、旧大山田村の名誉村民にもあげられた。以下、馬野川水力電気への関わりなど、馬岡次郎の業績と生涯を紹介する。



馬岡次郎

(『三重県紳士録』大正4年)

布引村村長・県会議員・衆議院議員

馬岡次郎は、明治20年7月、初代布引村村長馬岡清次郎の次男として三重県阿山郡布引村(現伊賀市)に生まれた。家業は林業であった。県立上野中学、奈良県師範学校を経て上京し、犬養毅邸に寄宿して勉学に励んだが、令兄の早世で帰郷、家督を継いだ。明治43年布引村収入役、大正元年同助役、そして大正3年9月には、27歳で第4代の村

長となった。産業組合活動にも熱心に取り組み、

明治44年5月には布引信用購買販売組合を創設し会長に就いている。大正5年には、後述のように、馬野川水力電気を創設して社長に就任した。

大正12年10月には三重県議会議員に選出され、昭和6年に再選された。以降、昭和12年5月までに県会議員を務め、昭和10年11月からは副議長を務めた。副議長に就任後、議長の石原円吉が病氣静養となり、代わって議長職を務め、名議長ぶりを謳われた。昭和12年5月には、政友会公認候補として衆議院議員に当選して戦時下の国政に参与した。この間、昭和13年6月三重県信用購買販売利用組合連合会会長、昭和18年8月三重県森林組合連合会会長なども務めている。



布引村役場(『大山田村史 下巻』昭和57年)

馬野川水力電気社長

馬岡は実業の面でも、多方面で活躍したが、その一つが馬野川水力電気の創設である。伊賀地方で、岩倉水力電気が創設(明治37年2月開業)され、順調な経営を行っていたこ

とも刺激になり、山田村、阿波村、布引村の3ヶ村の有志が集まり、電灯事業創設が協議され、大正5年8月に馬野川水力電気が設立された。馬岡は若干29歳で社長に推された。



馬野川水力電気 事業報告書(馬岡清史氏提供)



旧馬野川発電所



馬野川発電所位置図(筆者作製)

欧州で戦乱が勃発し鉄材や電線が値上がりし、一時着工を見合わせたが、大正7年6月に着工し、大正8年1月から開業した。当初資本金は5万円であったが、大正7年6月には20万円に増資された。発電所は、山紫水明の馬野川の流れを利用するもので、有効落差283尺、使用水量3立方尺/秒、水路251尺で、出力50kWの発電所であった。ペルトン水車が使用され、発電機と直結されていた。需要増加により、昭和5年には100kWへと増設されている。

同社は、昭和13年8月政府の勸奨により、東邦電力に合併された。不足がちであった供給力も、合併後は上野変電所と結ばれて受電するようになった。馬野川発電所は、昭和33年3月、老朽化のため廃止されたが、馬野溪の山中には、発電所の敷地の石組み、放水路跡、山側斜面には発電所へと落ちる水圧鉄管やその支持台も並び、山を登ると城壁のような貯水槽の跡が今も確認される。



馬野川発電所遺構(筆者撮影 平成18年7月)

馬岡次郎のその他の業績

馬岡は、馬野川水力電気のほかにも多くの事業に関わった。その一つは、伊賀窯業であ

る。伊賀で産する陶土を原料として売るだけでなく、焼き物を製造して美濃や多治見のよ

うに窯業を発展させたいとの思いから、郡長が中心になり関係町村が協力して、阿山郡是伊賀窯業（大正15年郡制廃止により伊賀窯業に改称）が大正12年3月に発足した。伊賀の電気王と言われた田中善助が社長に就き、馬岡は常務取締役役に就任した。当初は碍子の製造に挑戦したがうまくいかず、次いで京都大学の武田伍一教授の指導を受けながら高級建築材、テラコッタを製造し、大隈講堂や日比谷公会堂等に納入したが、大手の進出で競争に敗れ撤退した。昭和6年5月には工場の火災で大きな損失を出し、苦難が続く中、田中と馬岡は経営から退いた。このほか、馬岡は伊賀に本社を置く唯一の銀行、伊賀農商銀行の取締役も務めている。



テラコッタ（『Encyclopedia Britannica』）

終戦後は、昭和34年4月から38年4月までの間、大山田村（山田、阿波、布引の3村が合併して昭和30年新発足）の村長を2期勤めた。馬岡は親分肌の包容力を持ち、一諾すれば一身の利害を省みずに尽力した。青少年の育成にも熱心に取り組み、勉学の支援、就職の斡旋、相談相手となった。昭和41年1月に、78歳で逝去した。同年1月、長年に亘る公共の福祉、地域発展に尽した功績により勲三等旭日中綬章が授与され、また「生前の偉大なる自治功績を讃え」旧大山田村の



「隧道改修記念碑 衆議院議員馬岡次郎」
（筆者撮影 平成29年10月）

名譽村民（第1号）の称が贈られた。伊賀と津方面を結ぶ国道163号線の難所、長野隧道が改修された際に建てられた記念碑には、「昭和十四年三月 隧道改修記念 衆議院議員馬岡次郎」と記されている（平成20年に再改修）。

なお、馬岡次郎の長子、馬岡清也（1912～1979）は、内務省衛生局勤務を経て昭和3年10月、父の後を継いで、布引村村長となり、また県会議員として9年間に亘り活躍し、昭和54年、大山田村名譽村民（第2号）となった。



馬岡清也
（前掲『大山田村史 下巻』）

（浅野 伸一）